

脳のはたらきの検査について

【はじめに】

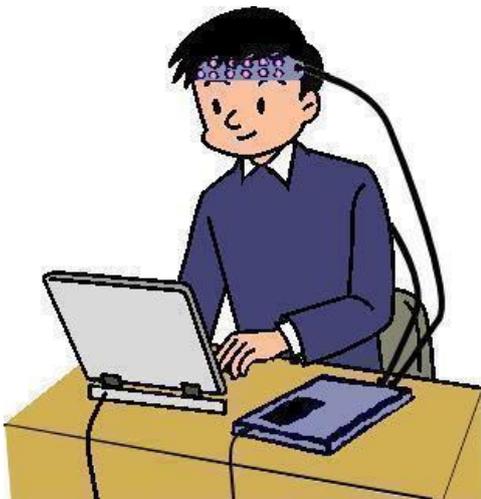
日々の生活の中で、私たちの脳はとても重要なはたらきをしています。本検査では、とくに大脳の前頭葉(おでこの奥あたり)のはたらきを調べます。この脳の場所は注意の持続や抑制(例えば、集中力を維持する力や、周囲の声や物に惑わされない力など)に関連があることが知られていることから、加齢による機能低下や注意力や多動性などの障害の診断のサポートとなる検査として注目されています。特に、前頭葉のはたらきを調べることで、行動面ではみられない認知処理を明らかにする可能性があり、非常に有用な検査方法として広く用いられています。

【検査の方法】

参加される方には、椅子に座ってパソコンの画面に提示されたいくつかの課題に取り組んでいただき、そのときの行動や脳のはたらきを観察し、認知機能を検査します。

この検査では、脳のはたらきを調べるために、ハチマキ型の脳血流計測装置(NIRS)をおでこに装着します。この装置から出る微弱な近赤外線(夕日より弱い光)は脳のはたらきに応じて変化します。NIRS 機器は病院での検査に用いられているもので、記録自体による身体への苦痛や危険性は全くありません。また、必要に応じて休憩時間を設け、いつでも中止をすることができます。

【検査の様子】



【脳機能計測装置(NIRS)】

